



標小だより

令和6年2月28日発行 責任者 校長 高橋知毅
URL <http://town.shibechea.ed.jp/shibechea-e/htdocs>

標小がめざす子ども像

- 自ら学ぶ子（知）
- 人のために行動できる子（徳）
- 自他を尊重する子（徳）
- 心身の健康安全に向け挑戦する子（体）



随時更新！
標小ホームページへアクセス

「あえて二兎を追う」

校長 高橋知毅

■2月15日、16日と今年度最後の参観日が行われました。お子さんの成長を感じ取っていただけたでしょうか。6年生は卒業を控え、自分達に今何ができると一生懸命考えて実践しています。先日は、後輩たちを訪ね、給食時間に対話をしていました。他にも何やら企画しているようです。

残すところあと1ヶ月。それぞれの子供の成長を確かめながら次へのステップの準備をしていきます。

■さて、元京都市立堀川高等学校長 荒瀬克己さんは、記憶中心だった学習に「課題探求型の学習」を取り入れて、堀川高校の国公立大学合格者を30倍にしたという実績を持つ方です。

荒瀬さんは、「二兎を追う」という言葉を使って、二つ以上の目標を掲げることを目標にしています。

例えば「自在に英語を話せるようになること」と「大学入試の英語を解けること」、「知識を習得する学習」と「課題を探求する学習」、「よく学ぶ」と「よく遊ぶ」など。

物事にはさまざまな側面があり、一つの面ばかりに集中してしまうと、大切なものを見落としてしまうというのです。

「二兎を追うものは一兎をも得ず」ということわざがありますが、そこはあえて、視野を広げ、より高い成果をあげることをねらっての「二兎を追う」なのだそうです。

■テレビで今もクイズ番組などでMCを務める予備校講師の林 修さんは、テレビの出演について次のように述べています。

「テレビの世界は相手の望んでいる方向で頑張らない限り、次は呼ばれない。自分のやりたいことをやってしまうと呼ばれない。」

つまり、やりたいことではなく、相手が望む方向と期待値に対して、自分にできることを努力しているということです。

「何がやりたいか」よりも「何ができるか」、そういう視点が大切であることは大人であれば誰もが知っています。「やりたいこと」が仕事につながっている人はいうことはありませんが、多くの人は「自分ならこれができる」ことにやりがいを見出して働いているのだと思います。大人が仕事をする意味もここにあるのかもしれません。

■「追ってほしい二兎＝やればできる複数の目標」をご家庭の話題にしてみてもいいでしょうか。

子供たちの生活に目を向ければ、「やりたいこと」の他に、それぞれの個性や長所を活かした「できること」はたくさんあるはず。それを見付けるだけでも意味がありますし、いずれは、それが生きて行く上での職業観にもつながっていくものだと私は考えます。

日々の生活の中でのコミュニケーションをとおして、相手が望む方向と期待値を知り、それに答えていく姿勢を身に付けることも大切な学びの一つだと思います。

日	曜	3月行事予定	バス時刻	
			1便	2便
1	金	交通安全街頭指導	14:50	16:00
2	土	1年生学級レク		
3	日			
4	月		14:50	16:00
5	火	6年生を送る会 お話会(3年生)	14:50	16:00
6	水	特別日課 PTA監査	13:00	14:50
7	木	卒業式練習① 放課後学習 図書館バス	14:50	16:00
8	金		14:50	16:00
9	土	6年生学級レク		
10	日			
11	月	卒業式練習② 大掃除週間	14:50	16:00
12	火	お話会(4年生) 交流学習会(3年生)	14:50	16:00
13	水	特別日課	13:00	14:50
14	木	卒業式総練習	14:50	16:00
15	金	(標茶中学校卒業式)	14:50	16:00
16	土			
17	日			
18	月	卒業式前日準備	14:50	16:00
19	火	第138回卒業証書授与式 3時間授業	11:40	
20	水	春分の日		
21	木	図書館バス	14:50	16:00
22	金	修了式・離任式 3時間授業	11:30	
23	土	年度末休業		
24	日			
25	月			
26	火			
27	水			
28	水			
29	金			
30	土			
31	日			

※予定に変更があるときは、学級だより・安心メール等でお知らせします。

6年生との交流(給食)

6年生が給食の時間にグループに分かれて他学年の教室に入り、一緒に過ごしています。本校では縦割り班活動等でも他学年との交流が行われておりますが、6年生の上手な声かけもあって、とてもいい雰囲気が生まれています。そこに最上級生の「力」を見ることができ、これまでの成長をあらためて感じるころです。標茶小学校の素晴らしい伝統として、これからも受け継がれていくことを願っています。



出前授業(標茶町博物館 ニタイ・ト)

3年生と4年生の社会科の学習で、「昔の暮らし」や「アイヌの人たちの暮らし」を学ぶ学習があります。今回、この学習を詳しく学ぶため、塘路にある博物館「ニタイ・ト」から学芸員の方をお招きして、説明していただきました。

実物なども持ってきていただき、実際に触れるなどしながら、学ぶことができました。社会科見学とはちょっと違う方法ですが、専門家の方に教わることは子どもたちにとっても刺激になって大変うれしかったようです。



「湿原学習」これまでの学習の成果を発表しました！

2月16日(金)の参観日で、5年生が総合的な学習の時間で取り組んできた「湿原学習」のまとめを発表しました。各自で設定した「テーマ」について、この1年間、実際に見たり、聞いたり、あるいは体験したりしたことを織り交ぜつつ、調べ尽くしてまとめたことを紹介しました。

どれも高学年らしく、様々な要素が組み込まれたり、多角的視野で考えられていたりするなど、内容としてもよくできていたのではないのでしょうか。

発表時にも活用されたパネルは、2月27日(火)まで開発センターにも展示されておりました。ご覧になられたでしょうか。

ぜひ、ご感想などもお寄せいただくと幸いです。



「家読」の取組について(図書担当)

夏・冬休みの家読をきっかけに、少しでも活字・新聞に触れる機会が増えるようにと実施を続けてきています。

今回も様々な取組と感想、ありがとうございました。保護者の皆様からいただいた感想をいくつか紹介します。

<低学年>

○読み聞かせると想像以上に興味津々に聞いていたので、読む側も楽しく家読することができました。
○図書館へ行って、自分で選んだ本を真剣に読んでいました。シーンとした時間の中で、集中するのはなかなかないのでとても新鮮でした。

<中学年>

○初めて、自分から作りたい!とのことで、図書館で本を選ぶ時から自分で進めていきました。買い物も進んで行き、材料や器具の準備も質問しながら本を見て、ほとんど一人で取り組んでいてとてもがんばっていました。おいしかったです。
○毎回、この時くらいしかなかなか読まないのですが、家族内でみんなで楽しく読書する時間を作りたいです。

<高学年>

○家にも猫がいるので、かわいいよねとか、家の猫も同じようなことをするよね、などと話しながら、一緒に読むことができました。
○小学校最後の家読。中学校へ行ったら、もうこのような時間を過ごせることもなくなってしまうかなと思いつつ、読み聞かせを聞いていました。たとえば、一緒に読むことはなくなってしまったとしても、これからも本には親しんでいってほしいです。

ゲーム、動画などの時間がどうして長くなってしまいう長期休業。図書館に行って本を借りたり、自宅にある本や新聞の記事と一緒に読んでみたりするのも、過ごし方の1つにできると良いと思います。

今後も、各家庭で読書に関する時間を作っていただきますようよろしくお願いいたします。

学校でも、新しい図書を購入して充実をはかったり、授業に関する本を学級に並べたり、本を身近に感じられる工夫をしています。



実は、学校教育活動アンケートの結果では、「2.7」(保護者)とあまり振るわなかった「読書活動」ですが、こうした着実な取組の実施も改善へのアプローチとなるのではないかと期待しております。

ご家庭のご協力もどうぞよろしくお願いいたします。